

2019年3月12日掲載

「プレゼント今昔」

今月、40歳の誕生日を迎えた。振り返ると、誕生日は待ち遠しく、特別な日だった。小さい頃はゲームやおもちゃ、年ごろになるとアクセサリやコスメグッズをもプレゼントしてらうのがうれしかった。今は大喜びする年齢でもなくなってきたが、お祝いのメッセージをもらうとやはりうれしく、力づけられる。

先日、小学校のお子さんがあるママ友と会話したときのことだ。子どもの誕生日プレゼントの話になり、「小学生はどんなプレゼントをほしがると？」と尋ねると、答えは「課金」の一言。スマートフォンのゲームで、アイテムをそろえるために「1000円分のプリペイドカードがほしい」などと言うそうだ。

近年、商品に価値を見出す「モノ消費」から、商品やサービスを通して得られる体験に価値を見出す「コト消費」へと、人々の意識が移り変わっている。訪日外国人観光客＝インバウンドの道内滞在中の過ごし方としても、ショッピング中心から、スキーや温泉、フルーツ狩りなど、体験を楽しむ「コト消費」が増えているという。

私が小学生の頃も、テレビゲーム機や携帯型ゲーム機が人気だった。今はより気軽にゲームができるようになった分、モノ自体より、その空間や体験を楽しむ「コト消費」に移行しているのかもしれない。

まもなく30年の歴史に幕を閉じる平成。次の時代はどんなプレゼントがはやるのか、来月小学生になる息子を横目に今からドキドキしている。

(毎日新聞)